

議 事 概 要

-
-
- 1 会議名** 第3回 長野都市圏総合都市交通計画委員会
- 2 日 時** 平成28年10月26日(水) 14:20~16:00
- 3 場 所** 長野県庁西庁舎1階 111・112会議室
- 4 出席者** 学識経験者：久保田委員長、藤居委員、益山委員
国土交通省：岩舘委員(代)、吉田委員(代)、猪股委員、横田委員(代)、
宮川委員(代)、高橋委員、坂本委員(代)
長野県：刀根川委員(代)、勝野委員(代)、藤池委員、田中委員
市 町：羽片委員、滝沢委員、小嶋委員、松澤委員、竹内委員、
畔上委員、松木委員、森委員
交通事業者：青山委員、中島委員(代)、倉島委員、長澤委員
- 5 資 料**
- ・ 次第
 - ・ 座席表、出席者名簿
 - ・ 資料1 第3回長野都市圏総合都市交通計画委員会 資料
 - ・ 資料2 第3回長野都市圏総合都市交通計画委員会 参考資料
 - ・ 資料3 「長野都市圏総合都市交通計画」策定に関する事前ヒアリングシート
 - ・ 第3回長野都市圏総合都市交通計画委員会 意見様式
 - ・ 正誤表



質疑応答

1. 開 会

2. 議 事

(1) パーソントリップ調査の実施状況

- 久保田 委員長
岩館委員 (国交省)
- ・スマートフォン調査について、都市計画調査室から、何か意見はあるか。
 - ・パーソントリップ調査手法の発展に向けた一つとして、普及が進んだスマホの活用を考えており、長野都市圏 PT で導入させてもらっている。
 - ・回答者の負担軽減と、調査実施側でデータ入力省略できるなど、双方にメリットがあり、他の都市圏でも普及活動をしていく予定である。
- 久保田 委員長
岩館委員 (国交省)
- ・スマートフォン調査の位置特定は、GPS を使用しているのか。
 - ・都市圏と同様の調査では、GPS を on にすれば、位置情報を取得し地図上に表示し確認できるようにしている。
 - ・1 週間連続調査では、通常の都市圏調査の 7 倍ほどの負担が回答者にかかるため、起床時に支援アプリを起動すれば、移動情報を蓄積しデータを自動生成する仕様となっている。
- 久保田 委員長
岩館委員 (国交省)
- ・位置情報の取得に関する拒否などはあるか。
 - ・アプリの利用承諾規約で確認いただいて実施している。
 - ・また、GPS を使用しなくても、他の日と同様の交通行動をした場合は、行動記録の入力サポート機能を使用して、「他の日と同様」と選択できる仕様となっている。
- 久保田 委員長
益山委員 (松本大) 事務局
- ・順調に調査が進んでいるようなので、このまま進めていただきたい。
 - ・パーソントリップ補完調査において、観光客の交通行動調査の 7 箇所とはどこか。
 - ・善光寺、飯綱高原、戸隠高原、臥竜公園、斑尾高原、戸倉上山田温泉、小布施の計 7 箇所を実施した。
- 益山委員 (松本大) 事務局
- ・8 月の実施となっているが、夏季以外の観光客の移動は、どのように把握するのか。
 - ・長野都市圏への観光入込が一番多い夏季を対象として、調査を実施した。
- 益山委員 (松本大) 事務局
- ・7 箇所は、長野都市圏の観光地入込客数の上位 7 位ということか。
 - ・観光入込客数が年間 50 万人以上の観光地を対象とし、7 箇所を対象とした。

(2) 分科会開催結果を踏まえた都市圏の課題と (3) 都市圏の方向性について

- 久保田 委員長
事務局
- ・交通から見た都市圏の方向性について、ご意見はあるか。
 - ・例えば、災害に強いネットワークなど、防災関係の視点はないのか。
 - ・分科会の中で、中野市から、千曲川の氾濫に関して災害に対するネットワーク強化に関する意見があった。
- 久保田 委員長
羽片委員 (長野市)
- ・各市町から、視点の過不足について意見をもらいたい。
 - ・都市計画マスタープランを改定中であるが、総合都市交通計画へ反映や提案していきたいと考えている。
 - ・立地適正化計画において、市街地の位置をどこに定めるかという検討しているが、それ以上に中山間地の人口減少が課題である。
 - ・そのため、市街地の位置だけでなく、暮らしを支える中山間地のあり方の視点をいれてはどうか。

- 滝沢委員 (須坂市) ・各地域から長野市へ向かう移動が多いため、パーソントリップ調査の結果を活かしながら、広域道路網の検討をお願いしたい。
- 小嶋委員 (中野市) ・中野市としては、千曲川を挟んで旧市村が合併していることから、千曲川の氾濫エリアを踏まえたネットワークの検討が必要である。
- 松澤委員 (飯山市) ・都市圏の調査は、都市間交通の移動が主と考えていたが、普段の地域の移動なども検討いただけるのであれば、インバウンド交通も多いことから、観光客の移動調査を十分に活用して頂きたい。
- 竹内委員 (千曲市) ・長野市と同様、本市も立地適正化計画を検討しているが、大型商業施設の outlet などもあるため、新しい市街地をどのように形成していくかが課題である。
- ・そのため、中心市街地と中山間地域との連携も含めて、参考とさせて頂きたい。
- 畔上委員 (小布施町) ・小布施町では、通過交通が市街地内を通過してしまうため、通過交通を外周部に誘導するような施策の検討を進めて頂きたい。
- ・また、道の駅の活用や連携も都市圏内に多くの道の駅があるので、検討いただきたい。
- 松木委員 (信濃町) ・分科会意見を踏まえた課題と今後の方針が、どのように結びつくのかが気になる点である。
- ・夏季と冬季の交通施策など、具体的に踏み込んだ検討をして頂きたい。
- 森委員 (飯綱町) ・国道 18 号など観光移動の車が非常に多い。特に大型バスなどの増加が見受けられるため、交通量調査結果をしっかりと踏まえ、幹線道路の整備の検討を進めてほしい。
- ・中山間地域の過疎地に対する考え方も、追加してほしい
- 久保田 委員長
- ・交通事業者からも、意見をお願いしたい。
- 青山委員 (JR) ・鉄道の利用促進とは、ソフト面・ハード面で、具体的にどのようなイメージを考えているのか。具体的な提案を望む。
- 中島委員 (長電) ・長野電鉄は、北信地域の 2 次交通の役割を担っているが、点と点を結んでいるため、今後は 3 次交通をどうしていくのが課題である。
- 倉島委員 (バス協会) ・バスは地域交通を担っているため、マイカー利用の抑制が非常に重要なポイントとなってくる。
- ・ライドシェアについても、将来的に交通体系に大きな影響を与えていくため、計画に盛り込んでいく必要がある。
- 長澤委員 (しなの鉄道) ・公共交通の利用促進については、まちづくりと一体となった取組が必要である。
- ・特に、コンパクトシティを考えると、鉄道駅を中心とした取り組みなど、まちづくりをもう一度見直し、住んでいる人・観光客にとって便利な 2 次交通の整備をすることにより、公共交通の利用促進を図る必要がある。
- 事務局
- ・本日頂いた意見を踏まえ、次回の委員会時に方向性を示したい。
- ・特に、立地適正化との連携、中山間地の交通や 2 次交通のあり方、公共交通の利用促進策などを含め、検討を進めていきたい。
- 久保田 委員長
- ・全体を通して、意見はあるか。
- 松澤委員 (飯山市) ・課題や調査のまとめ方について、広域だけでなく、各市町単位でのまとめも必要である。
- ・特に、各市町の共通課題の整理が必要である。
- 久保田 委員長
- ・都市圏の広域的な議論が中心であるが、圏域全体の課題だけでなく、各市町の計画等と整合を図れるように、課題や方針を整理する必要がある。また、モデル的に市町特有の課題に対する方向性の検討も一案である。
- 益山委員 (松本大) ・自転車の移動が取り上げられているが、自転車と一緒に鉄道に乗車する際に、現状では折りたたむ必要がある。
- ・長野都市圏では、観光に自転車を利用する際に、もう少しスムーズに乗車することは可能か。

- 青山委員 (JR)
- ・駅構内の乗換え時に自転車の押し歩きができるのかという課題が考えられる。
 - ・次いで、鉄道の車内を考えると、車内の混雑時は、他の乗車客への影響が懸念される。また、自転車の固定方法が課題として考えられる。
- 益山委員 (松本大)
- ・ヨーロッパの事例では、階段にスロープを設置するなどして、プラットフォームへ容易に行ける。
 - ・また、鉄道の車内については、座席と自転車を保管する場所をうまく組み合わせることにより、工夫している。
 - ・長野都市圏における自転車の普及に向けて、鉄道事業者さんの協力の下、検討することができないか。
- 久保田委員長
- ・ヨーロッパでは、信用乗車で改札が無い。また、電車のキャパシティに余裕があるのかという問題も考えられるため、簡単ではないが、検討のひとつとしてほしい。
- 久保田委員長 事務局
- ・千曲分科会では、トランジットモールというキーワードが出ているが、具体的なプロジェクトや場所のイメージがあるか。
 - ・取り組みの一つとして出された意見である。
- 勝野委員 (長野県)
- ・広域道路網や広域ネットワークというキーワードは、都市間という意味合いだが、渋滞対策となると地区内道路網も対象となるため、文言については、目的にあわせてほしい。
 - ・また、全体として、防災の視点がないように感じるため、強靱化計画を参考に、無電中化や道の駅の活用など、計画に盛り込んでほしい。
- 吉田委員 (国総研)
- ・交通事業者の経営難については、利用者の問題だけでなく、ドライバーの不足などもあることから、新たな交通システムの検討をしてほしい。
 - ・特に、都市構造を考えると、長期的な視点の検討が必要である。
- 久保田委員長
久保田委員長 事務局
- ・どこまで計画に盛り込めるかはあるが、検討をしていただきたい。
 - ・コミュニティサイクルを実施している自治体はあるのか。
 - ・長野都市圏では、実施していない。
- 久保田委員長
藤居委員 (信州大) 事務局
- ・簡単に言うと、乗り捨て型のレンタサイクルであり、日本でも導入事例が多い。観光地としては、導入可能性が十分にある。
 - ・立地適正化の計画は長野市・千曲市で検討されているが、複数の市町村で連携して、議論・検討してはどうか。
 - ・長野市、須坂市、千曲市では、長野地域連携中枢都市圏構想を策定しているが、本会議においても、これらを参考に拠点の検討を進めていきたい。
- 横田委員 (関東地整)
- ・市町村の連携について、関東地方整備局管内においては、館林市を中心とした1市5町が連携して、立地適正化計画を検討している。
 - ・なお、国土交通省が考えるまちづくりとしては、「鉄道沿線まちづくり」という形で、鉄道を軸として、都市機能を集積することを考えている。
- 久保田委員長
- ・広域的な立地適正化のようなイメージとして、各市町が保有している施設について、施設の共有・役割分担を考えて、各市町の負担を減らすことである。あわせて、ネットワークについても考えていく。
- 岩館委員 (国交省)
- ・国交省では、時代に合わせて、パーソントリップ調査を今後どうしていくべきかを検討している。
 - ・長野都市圏では、分科会などでニーズの収集や丁寧な調査の実施など、人口減少を見据えた、地域ニーズに対応したパーソントリップ調査を実施している。
 - ・特に、本体調査だけでなく、補完調査やビックデータを組み合わせることにより、それぞれの課題に対処できるという点を、長野都市圏の事例を通して、示していきたい。
 - ・そのため、各調査と分析の対応関係について、整理して頂きたい。
 - ・また、結果をまとめる際には、地域別に課題が違う中で、パーソントリップ

調査結果がどのように使われるのかを示してほしい。

久保田
委員長

- ・パーソントリップ調査が、量の把握から質の把握に変わりつつある。今回、親の介護や実家への移動などが把握できるように調査票を工夫している点も画期的である。
- ・また、1週間連続調査では、例えば中山間地域において、1週間まったく移動しない人の把握なども可能となり、これまでになかった調査と考えている。

3. その他

事務局

- ・その他にも意見がある場合は、11月4日までに別紙の意見要旨の提出をお願いしたい。
- ・第4回委員会は、年明けの平成29年3月14日（火）の午後、県庁議会棟の講堂にて開催する。

4. 閉 会

以上